

プレス・リリース

2018年5月14日

プリンセス・クルーズのキュリナリー・エクスペリエンス・ディレクターが
権威ある組織の「マスター・シェフ・オブ・フランス」に認定
～ピエール=マリー・ルプランスが、アメリカを拠点とする2018年認定シェフ
2名のうちの1名に選出～



プリンセス・クルーズは、ゲスト・キュリナリー・エクスペリエンス・ディレクターを務めるシェフ、ピエール=マリー・ルプランスが、フランス料理界における権威ある組織「マスター・シェフ・オブ・フランス協会」（ル・アソシエーション・デ・メートル・キュイジニエ・ド・フランス、以下 MCF）より「マスター・シェフ・オブ・フランス」の称号を授与されたこと発表しました。ルプランスは、3月12日にマカオで開催された第63回国際会議で正式に認定されました。2018年は、アメリカを拠点とするシェフのわずか2名のみが候補者に挙がっていましたが、最終的にルプランス1名のみが認定されました。

ルプランスは、今年、栄誉ある MCF に認定された世界 30 名のシェフのうちの 1 人となり、その使命は、「フランス料理の芸術性の保護および普及、調理訓練の促進、専門技能の発展における支援」が挙げられます。メンバーの多くは、レストラン・ガイドなどで最高の等級を与えられ、フランス料理における著名な権威とみなされています。彼らは、国内外の調理審査会で審査員を依頼されることも多くあります。

MCF のクリスチャン・テットドワ会長は次のように述べています。「MCF が目指すのは、若きシェフたちにフランス料理の価値や芸術性を教え、調理における実践や調理法を、フランス料理の芸術性に長けたシェフたちと共有し、維持していくことです。MCF のメンバーは、非常に優れたフランス料理のシェフであり、また、フランス料理の普及、訓練の重要性、高品質な調理器具の使用を推進します。私たちは MCF のメンバーであることを大変誇りに思い、ルプランス氏のように実績のあるプロのシェフをメンバーとして迎え入れることは光栄なことです」。

フランスのブルターニュ出身のルプランスは、クルーズラインに在籍するシェフの中で、MCF に称号を与えられた数少ない 4 名のうちの 1 人となりました。MCF は世界中に 560 人のメンバーがおり、主なメンバーには、ダニエル・ブールー氏、エリック・リペール氏、ジャン・ジョーホー氏、そして 3 月 12 日の国際会議でシェフ・オブ・ザ・イヤーを受賞したジョエル・ロブション氏などが所属。また、新たに MCF に入会したシェフとして、最新の客船マジスティック・プリンセス内のフレンチ・ビストロ「ラ・メール」でプリンセス・クルーズおよびルプランスとパートナーを組んだエマニュエル・ルノー氏もいます。

「私の仕事に対してこの称号をいただくのは、非常に名誉なことです。フランス料理のシェフが目指す最高栄誉の1つであり、世界中の料理を提供するプリンセス・クルーズにおいて、様々な世界の寄港地にちなんだ料理のレシピ開発に携われることを誇りに思います」と、ルブランは述べました。

ルブランが受けた修業や初期の経験は、フランス料理の伝統をルーツにしています。1984年にフランス南西部のペリゴールで修業を開始。1986年の見習い期間修了後、ゴールドメダル・オブ・ホスピタリティ・オブ・アキテーヌ、シルバーメダル・オブ・ボルドー、そしてボルドーの国際的な食品見本市である「EXP オテル (EXP' Hotel)」でツーリズム・トロフィー・オブ・アキテーヌを受賞しました。その後、ルブランはパリのマキシムで働き始め、後にこの名高いレストランのフランス料理をマキシム・ド・パリ北京店にもたらしめました。その後、ディズニーランド・パリやディズニー・クルーズライン、サンダルズ・リゾートなど世界中のリゾートや旅行関連企業などの勤務経験を経て、2010年にプリンセス・クルーズに入社。ルブランはその4年後、1度退職しましたが、2016年に復職しています。

そして現在、ルブランは、ゲスト・キュリナリー・エクスペリエンス・ディレクターとしてプリンセス・クルーズの経営陣やオンボード・キュリナリー・チームと連携し、最高水準の維持に努めています。プリンセス・クルーズは、新鮮な食事の提供を念頭に置いた客船を建造する、数少ないクルーズラインです。焼き立てのパンの終日提供、新鮮な原料を使用したソース、船内で熟成させてからハンドカットするステーキのほか、毎日作るホームメイドのアイスクリームも、食事の提供における独自の取り組みの一環です。ルブランとそのチームは、プリンセス・クルーズの客船において、寄港地それぞれの特色を持った味わいを提供できるよう努めています。ルブランはまた、プリンセス・クルーズ全17隻の船内メニューの開発および改良の責任者も務めています。

プリンセス・クルーズについて

世界最大の国際的なプレミアムクルーズラインであるプリンセス・クルーズは、現在17隻の近代的な客船を運航する、世界的なクルーズ会社。革新的なデザインの客船で、食事やエンターテイメント、施設の豊富な選択肢を、上質なカスタマーサービスとともに提供。世界的なクルーズ会社のリーダーとして、年間200万人のゲストを世界の360以上の目的地に向けて、3泊から111泊の日程でバラエティ豊かな150以上のクルーズを運航。

プリンセス・クルーズは、[カーニバル・コーポレーション& plc](#) (NYSE/LSE:CCL; NYSE:CUK)傘下の会社。

プリンセス・クルーズの主な受賞歴

- 米国のトラベル関連のウェブサイト「USA トゥデイズ 10 ベスト.com」リーダーズ・チョイス・アワード2016においてベスト・オーシャンクルーズライン賞第1位、ベスト・クルーズシップ ダイニング部門にてロイヤル・プリンセスが第1位、ベスト・クルーズシップ エンターテイメント部門にてリーガル・プリンセスが第1位、ベスト・クルーズシップファミリー向け客船部門にクラウン・プリンセスが第2位、リーガル・プリンセスが第3位、ロイヤル・プリンセスが第6位を受賞
- 米国クルーズ誌大手「ポートフォール・クルーズ・マガジン」リーダーズ・チョイス・アワード2016にて、ベスト・中米コース、ベスト・南太平洋コース、ベスト・オンボード・ショッピング、ベスト・シグネチャー・カクテルを受賞
- 英国クルーズ誌最大手「クルーズ・インターナショナル」主催「クルーズ・インターナショナル・アワード2016」において、「ベスト・クルーズ・ライン賞」を3年連続で受賞
- 米国トラベル誌最大手「トラベル・ウィークリー」の「トラベル・ウィークリー・リーダーズ・チョイス・アワード2017」にて「ベスト・クルーズ・ライン・イン・アラスカ」を2017年12月に受賞。(11年連続の受賞)。米国でのベストクルーズラインであることが評価され「ベスト・ドメスティック・クルーズ・ライン」を同時に受賞
- 米国のトラベル関連のウェブサイト「レコメンド」が主催する「リーダーズ・チョイス・アワード2015」にて、ベストクルーズライン クルーズコース部門賞を2014年に引き続き2015年12月に受賞
- 「2015 トラベル・ウィークリー・アジア・リーダーズ・チョイス・アワード」のサービス・エクセレンス・カテゴリーでベスト・クルーズ・ライン賞を、2015年10月に受賞

【国内での受賞】

- 第9回「観光庁長官表彰」を2017年10月受賞
- 第3回「ジャパン・ツーリズム・アワード」で、海外領域ビジネス部門で部門賞を2017年9月受賞、また第1回同アワードにて、観光関連産業部門部門賞を2015年9月受賞



- 神戸市におけるクルーズ振興に貢献した功績が評価され、神戸市より「Cruise Line of Excellence」を2016年11月受賞
- 日本で歴史あるクルーズ誌「クルーズ」の読者投票「クルーズシップ・オブ・ザ・イヤー」において2014年度、2015年度、2016年度、2017年度と、プリンセス・クルーズが「外国船社部門第1位」、客船『ダイヤモンド・プリンセス』が「外国船部門第1位」、「総合部門第3位」を4年連続で受賞
- 日本水先人会連合会が選ぶ「ベストクオリティーシップ2014」を2015年6月受賞
- 日本外航客船協会主催「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2014」にて、プリンセス・クルーズの日本発着クルーズが2014年12月に「グランプリ」受賞
- 一般社団法人日本旅行業協会主催「JATA ツーリズム大賞 2013」にて、「運輸部門優秀賞」を2013年9月受賞

株式会社 カーニバル・ジャパン
(プリンセス・クルーズ ジャパンオフィス)
<http://www.princesscruises.jp/>